

『歩こう会』 (ロング・シノプシス)

脚本：初稿（2008年12月）→3項（2012年2月。一部修正）

康弘（38）と聡（38）は中学・高校時代を一緒に過ごした幼馴染。彼らが卒業した高校は進学校で、二人ともいい大学を卒業して高学歴。しかし、大学卒業後10数年、康弘は中堅商社・千種商事の副所長として働き、中間管理職ながらそれなりにいい給料を貰っているが、一方の聡は就職難の中、転職を繰り返し、現在は運送会社で派遣社員として働いている。

康弘は妻・清美（29）と夫婦でマンション住まい。独身の聡はパラサイトのまま母親・りつ子（62）と同居している。とはいえ、康弘と聡は高校後もずっと交流が続き、郊外住まいの康弘は、早朝会議のある前夜には職場に近い聡の家に泊めてもらうことが多い。

今日も、康弘は聡の家でりつ子の手料理を食べている。りつ子は週末に近所のおばちゃん連中と“歩こう会”で富士山・樹海ツアーに出かけることになっている。

「俺らも中学の修学旅行で行ったな、樹海」

その修学旅行は、康弘が中学時代に亡くなった母がこの世を去る少し前の出来事だった。

康弘の脳裏に蘇る“青空に靴が宙を舞う”シーン・・・

息子の旧友・康弘をいつも快く招き入れるりつ子だったが、心の中には複雑な思いがあった。保険の営業員をするシングルマザーの娘・智子（44）に八つ当たりをするりつ子。

「乏しい蓄えでこれから年金暮らし、そやのに娘はシングルマザーで息子が派遣社員でようやく食うてるて・・・今が一番心配や、言うねん・・・」

「どうせこれから大して面白い事もないやろし、今度の歩こう会、バス事故で死んでアソタのところの保険で、あんたと弟、助けたる言うてんねん」

一方で、康弘の妻・清美は仕事に忙殺される夫との結婚生活に空虚さを感じ始めている。彼女は元々キャバクラで働いていたところ康弘と出会って結婚したのだが、夫を待つばかりの日々の中、自分の存在意義を見失いそうだった。彼女の唯一の息抜きはキャバクラで働いていた頃の旧友・聖子（27）が開店したスナックで仕込みの手伝いに行くことだったが、彼女が水商売に係わることに康弘はあまり気を良くしておらず、二人の気持ちもすれ違いを見せていた。

ところ変わって、失業問題に悩むインターネット「自殺者サイト」投稿者の一部が先鋭

化し、“勝ち組に制裁を”と、有毒ガステロを東京で実行する計画が進みつつあった。首謀者のクラレンスと呼ばれる男（32）は有志を募って硫化水素を無臭化する実験を行っていた。その実験場は富士・樹海。そのメンバーの中には、少し前まで大阪で親が営む大衆食堂で働いていた篤弘（30）の姿もあった。

その富士の樹海を目指して、おばちゃんたちが“歩こう会”のバス旅行に出かける。彼女たちは、各々表面上は仲良く付き合っているが、裏では陰口など不協和音が流れていた。

康弘は人付き合いが下手で、職場では場当たりの上司や若手社員らとの人間関係に問題を抱えていた。

ある日、化学物質の大口注文をマニュアル通りの対応で断った康弘を、上司の所長が「副所長なのに店のノルマ達成への自覚がない」となじり、勝手に注文を受けてしまう。しかし、実はその注文はクラレンスの集団が毒ガス実験をするために取寄せるためのものだった。

清美は、康弘との気持ちのすれ違いや夫婦げんかで気持ちがふさぐ中、聖子の店でキャバクラ時代の客・大場（45）と再会する。

ある日、大場に強引にドライブに誘われる清美。彼らの車が康弘の母校の高校付近にさしかかる。康弘との生い立ちの違いについて引け目を感じてしまう彼女。そんなやるせない気持ちの中、彼女はつい大場とラブホテルに入ってしまう。

聡は、仕事の面では派遣先の運送会社で欠かすことができない存在だった。しかし、おちゃらけた性格のせいで、正社員の管理者からは疎まれていた。

ある日、聡は暴力事件を起こした同僚をかばったことで正社員と揉め、激昂し、職務時間中にもかかわらず職場を後にする。憤りの中、彼が向かった先は・・・

同じ日、康弘は上客で自分に目をかけてくれていた電機製品会社の社長に、誤解から康弘との取引を反故にしたいといわれて落ち込む。失意の彼が営業車のまま向かった先は・・・

落ち込んだ康弘と聡が向かった先は彼らの母校の高校だった・・・高校3年間を部活のバスケットに汗を流したグラウンドで、偶然出会う康弘と聡。彼らはそれぞれ、今までも何かむしゃくしゃしたことがあると、たびたびこの地を訪れて心を落ち着かせていたのだった。

「俺ら、あのころが一番がむしゃらやった気がするな・・・」

営業車に聡を乗せて母校付近を走る康弘。

「しかし、俺ら、何でまだ一緒につるんでるんやろうな。もう15年以上やで」

しみじみ問いかける聡だったが、康弘からの返答はない。実は同じ瞬間、彼は妻・清美がラブホテルから出てくるところを目撃し、言葉を失っていたのだった。

駅で康弘と別れる聡。康弘が妻の浮気現場を目撃しショックを受けていることに気付かなかった聡は聡で、康弘が自分の問いに返答を返さなかったことで、現在の我彼の差を感じてしまい、傷ついてしまっていたのだった。

一方、色々な事に耐えられなくなった康弘は、営業車のままあてもなくさ迷う。

歩こう会で富士山近辺を歩いたりつ子ら一行は、宿に戻って酒盛りを始めていた。酔っ払って次々に居ない者の悪口を言いだすおばちゃんたち。それに加担するりつ子だったが、彼女が席を外したとたん、りつ子の息子・聡と娘・智子の現状を肴に「あの子ら、昔はよう勉強でけたのに、今、なあ・・・」と、悪口を言い始めるおばちゃんたち。それをりつ子が聞きつけ、口論となって宿を飛び出してしまう。

宿を飛び出した瞬間、りつ子は走ってきた1台のバンにぶつかってしまう。

そのバンに乗っていたのは、実験を完了させ、いよいよ東京に毒ガスを散布しに出かけようとしているクラレンス達だった。

計画の漏えいを恐れる彼らは、クラレンスの強い主張の元、拉致したりつ子を毒ガスで殺そう、ということになった。実験場に戻るクラレンス達。

ガスマスク・防護服の男たちに囲まれ、危機一髪のりつ子。しかし、毒ガスが撒かれるその瞬間、このテロ集団の一員である篤弘が間一髪でりつ子を救い出す。

実は、篤弘が「自殺サイト」の毒ガス集団に加わったきっかけは、母の死後、実家の食堂が潰れて社会への不満を募らせていたからで、自分の母にオーバーラップするりつ子を殺すことができなかったのだった。

クラレンス達の追跡をかわしながら歩くりつ子と篤弘。すると1台の乗用車が通りすぎる。康弘の姿を運転席に見た気がしてりつ子は不思議に思う。

宿に到着したりつ子は歩こう会の仲間たちから非難と歓迎を受ける。りつ子の捜索を依頼されパトカーで宿に来ていた巡査の白木（28）に、篤弘が彼らのテロ計画を暴露する。騒然とする一同。

一方、帰宅しない夫を心配する清美は、電話した聡との会話で、康弘が彼女の浮気現場に遭遇したことを察してしまう。

聡から康弘が行方不明になったと聞かされたりつ子は、やはりさっき見たのは康弘だったのだと確信し、仲間のおばちゃんたちと一緒に巡査の白木を強引に駆り出し、一致団結してパトカーで康弘の捜索を始める。

色んなことが嫌になった康弘は、一人樹海の奥深く歩み入って行く。樹海の入り口に康弘の営業車を見つけたりつ子も、降り出した雨の中、樹海深くへと入って行く。

土砂降りの雨の中、りつ子は、ふと見上げた“青空”に“靴が宙を舞う”のを見る。

その不思議な光景にいざなわれた先に、りつ子は康弘を見つける。そして、20数年前に息子の聡がそうしたように、康弘の手を強く握り、彼女は樹海の外へ康弘を連れ出した。

「ほんまにあんたは、腹立つ子やなあっ」

康弘を強くビンタするりつ子。

20年数前、康弘の母が病身をおして息子のために作った“靴”の形をした手製のキーホルダー。修学旅行の際、それを知らず悪ふざけで樹海に放り投げた聡だったが、その後、康弘と聡は親友となり、母の“想い”は聡を通してりつ子へと手渡されたのだろうか・・・

パトカーで警察へ戻るりつ子と仲間たち。そこへ一網打尽にされたクラレンス達が警察に連行されてくる。りつ子たち“のうのうと生きる勝ち組ども”に呪詛を吐くクラレンス。彼は一瞬の隙に警察の手を振りほどき、逃亡しようとする。が、おばちゃんたちの機転で彼は観念せざるを得なくなった。おばちゃんたちは東京を毒ガスから救ったのだった。

歩こう会の帰りのバスは、上機嫌で歌い騒ぐおばちゃんたちの独壇場だった。

「女は強引な男に弱いんや。一言“悪かった”言うて、ガバって抱いたらイチコロやで」
下品な笑いがこだまする中、黙って狸寝入りするしかない康弘。

自宅に戻った康弘と清美の邂逅は、とても二人らしいものだった。そして、二人だけの「絆」を取り戻し、彼らはやっと、本当の意味で夫婦になったようだ。

そして、また、いつもの日々が始まる。聡は正社員に平身低頭、頭を下げ、職場に復帰した。康弘も快く職場に迎え入れられた。

そして、早朝会議の前夜、康弘はいつものように聡の家でりつ子の手料理を食べている。

「今度の歩こう会は伊勢・志摩ツアーなんですね？」

康弘はりつ子たちにサプライズな知らせを用意していた・・・大阪の、どこにでもあるようなその家の食卓は、その夜、幸せな笑いで満ち溢れていた。